

国民健康保険

国民健康保険被保険者の皆さんへのお知らせ



平成23年度の国保被保険者証の交換をお忘れなく

■平成23年度の被保険者証との交換はお済みですか？

甲佐町国民健康保険に加入している人で、まだ平成23年度の被保険者証（薄い赤色）をお持ちでない人は、旧被保険者証（薄い緑色）をお持ちになり、町住民生活課窓口で交換してください。

世帯に、国保加入者が複数人いる場合は、全員の被保険者証をお持ちください。また、やむを得ない理由で別世帯の代理人に切り替えを依頼される場合は、委任状が必要です。

■資格異動の届け出を忘れずに

●就職したときは？

就職でほかの健康保険に加入したときや、健康保険の被扶養者に認定

されたときは、国保の資格喪失の届け出が必要です。

【届け出に必要なもの】

- ・国民健康保険被保険者証
- ・取得した健康保険被保険者証
- ・印かん

※資格喪失の届け出が遅れると…

被保険者証があるため、誤ってそれを使って医療を受けた場合は、国保が負担した医療費を後で返していただくこととなります。また、ほかの健康保険に加入していても、国保の資格喪失について届け出なければ、国保税が課税されたままになります。

●退職したときは？

退職して、健康保険の資格を喪失したときや、健康保険の任意継続を喪失したとき、健康保険の被扶養者から外れたときは、国保の資格取得の届け出が必要です。

【届け出に必要なもの】

- ・健康保険資格喪失証明書（または喪失日が確認できるもの）
- ・印かん

※加入の届け出が遅れると…

国保税は資格の取得月から課税されますので、さかのぼって納めなければなりません。また、被保険者証がないため、その間の医療費は全額自己負担になります。

産業後継者育成

■交流会で出会いの場を提供

甲佐町産業後継者育成対策協議会では、後継者育成事業の一環として、独身の皆さんの「出会い」を応援することで結婚への支援をしています。

平成21年度から開催しています「ふれあい交流会『I&愛』」では、これまでたくさんの男女の出会いの場を提供してきました。平成23年度も同様に、「交流会」を企画し開催します。ぜひ「交流会『I&愛』」で、新しい出会いのチャンスをつかんでください。

【平成22年度の交流会開催状況】

- 6月 「鮎と恋が躍るやな場」
- ・交流内容 観光・散策など
- ・参加者 男性7人・女性8人（カップル成立2組）

○8月 「緑川の自然にまつまれて」

- ・交流内容 井戸江峡キャンプ場でのバーベキューや散策など
- ・参加者 男性5人・女性4人（カップル成立3組）

○10月 「手づくり体験とバイキング」

- ・交流内容 阿蘇ミルク牧場で手作り体験や散策など
- ・参加者 男性8人・女性8人（カップル成立3組）

○12月 「縁結びツアー」

- ・交流内容 縁結びで有名なスポーツト巡りや観光など
- ・参加者 男性8人・女性8人（カップル成立3組）

○2月 「バレンタインで婚カツ！」

- ・交流内容 チョコケーキづくりやゲームなど
- ・参加者 男性8人・女性8人（カップル成立4組）

■交流会の登録者を募集中

現在の登録者は、男性31人、女性89人です。男性の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

▼お申し込み・お問い合わせ先

- ・甲佐町産業後継者育成対策協議会「ふれあい交流会」専用ダイヤル
- ☎080・1705・5339

・「ふれあい交流会」専用メール

✉kosa_hu-kouryukai@docomo.ne.jp

独身の皆さん!『I&愛』に登録してみませんか?



「ふれあい交流会『I&愛』」で出会いの場を

町企画推進課 ☎096-234-1111(内線233) ✉klg104@town.kosa.lg.jp

町産業振興課 ☎096-234-1111(内線153) ✉klg206@town.kosa.lg.jp

文化財保護

史跡「陣ノ内館跡」発掘調査レポート# 9



館跡の南側斜面で石の痕跡が確認されている小道

■陣ノ内館跡の古道

陣ノ内館跡の周りには、台地に登るための道がいくつもありました。

ここでいう道とは、コンクリート舗装された現在ある道ではなく、幅50^{センチ}程度で舗装もされていない、地元の方々が通らないような小道です。台地の上を目指し一直線に登る急な道もあれば、斜面を横切るようにジグザグに登る道など、その道の幅や形もさまざまです。

館跡はほとんどが畑作地なので、もちろんこれらの道の多くは農作業を行うための通り道として利用されてきましたが、これらの道ができた始まりは一体いつなのでしょう。平成20年度に行った発掘調査の中で延長16^{メートル}、幅1^{メートル}程度の規模で石を並べた痕跡を確認しました。これを

受けて、石の分布は館跡の謎を解明する一つの大きな鍵になると考え、台地の上のどの部分に石があるのかを確認する必要があります。

そこで、発掘調査のデータを基に80^{センチ}程度の棒を地面に挿し、石があるかどうかを確認する作業を台地全面で行いました。この作業では、石が台地の上だけにしかあるのかを知る必要もありましたので、台地の上だけではなく、南側斜面の一部でも行いました。

その結果、驚くことが分かりました。台地の上だけでなく南側斜面の一部でも反応があり、いわゆる地元の皆さんが農作業時に通る、急斜面に登る細い道のうち3本に石があるようです。

ここからは推測になりますが、道に沿って反応があることから、これらは路面を安定させる敷砂利か、あるいは登るための階段かと思われる。これらの道は、おそらく館を造ったときや、館と下にある集落との行き交いのために造られたものではないでしょうか。

道の発見は、単に城登りのルートが分かっただけではありません。道の存在を調査で丁寧に追ったことで、城の入口の場所を知る有効な情報を得ることができました。

町教育委員会社会教育課 ☎096-234-1111(内線324) ✉klg110@town.kosa.lg.jp

男女共同参画

■子育てなどを支援できる社会を

少子高齢社会を迎え、さらに核家族化が進み、本町でも高齢者世帯がずいぶん増えました。わが家も同様です。

団塊の世代の私は、3人の子どもを産み、同居の母親に当たり前のように子どもの世話を頼んで、外に勤めに出ていました。そして今、2人の子どもは結婚。親とは別居。子どもを産み、保育園に預けて夫婦で働いています。父親は朝早くから夜遅くまで仕事で、子どもとふれ合う時間がほとんど持てません。母親は朝起きるとばたばたで、ご飯をかき込みながら子どもを保育園に送ります。4歳の孫が「お母さんたちもお仕事大変だけど、私たちもお星様が出るまで迎えがないので大変ね」と

いった言葉が忘れられません。また、独身の子どもは仕事に追われ、結婚はいつになることやら……。

私の子育てのころから30数年たった現在、出産や介護に関しても育児休業や介護休暇などの施策がなされてきました。最近では、育児休業などを取って育児に積極的に関わる男性「イクメン」が少しずつ増えてきました。現実には育児責任が女性に偏っていることが多く、男性の家庭への参画はまだ低い状況です。

また、さまざまな施策がなされても、それを適切に利用できなければ、よりよい家庭生活・社会生活を送れません。大切なのは、その重要性を認め合う一人ひとりの、ひいては社会全体の意識だと思えます。「無縁社会」といった状況が、よくテレビなどで報道されます。「お互い様」、「縁があつて」といった古くから私たちが大事にしてきた「思いやり」、「人と人とのきずな」を再認識し、子育てや介護においても家族や社会的支援を活用できる環境を整えたいものです。(K・S)

▼お問い合わせ先
甲佐町男女共同参画社会推進懇話会(事務局・町住民生活課内)

☎096・234・1111
(内線102)

子育てや介護などへの支援を活用できる環境



子育てなどを支える環境が大切(写真はイメージ)

町住民生活課 ☎096-234-1111(内線102) ✉klg106@town.kosa.lg.jp